ネットワーク
KITA-NET Network

北海道に広げていこう、環境のネットワーク

KITANET Network 会員数
MEMBER
正会員
59団体・16個人
賛助会員
54個人
14企業・団体
2020年3月現在

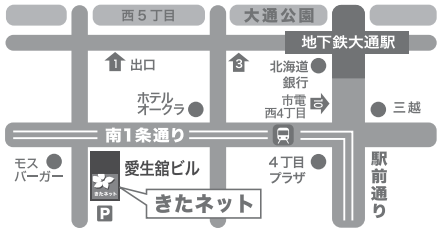
きたネット賛助会員／北海道の環境活動を支援する企業・団体

公益財団法人秋山記念生命科学振興財団 / 網走市廃棄物処理協同組合 /株式会社櫻井千田 /
公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 / 親切会北海道支部 / 株式会社地域環境計画北海道支社 /
DCMホーマック株式会社 / 株式会社トゥリー / パタゴニア札幌北・パタゴニアアウトレット札幌南 /
株式会社プリプレス・センター / 北海道自動車処理協同組合 / 公益財団法人北海道新聞野生生物基金 /
一般財団法人前田一歩園財団 / 雪印種苗株式会社

きたネットの活動にご寄付・ご協賛をいただいたみなさまです。ありがとうございました。(順不同)
寄付・協賛(2019年4月〜2020年3月)

公益財団法人日本賃貸住宅管理協会 北海道ブロック、公益社団法人全国賃貸住宅経営者協会 北海道支部、
全国賃貸管理ビジネス協会 北海道支部、DCMホーマック株式会社、株式会社北翔、一般社団法人札幌空調衛生工事業協会、
川正染工株式会社、北日本測地株式会社、親切会北海道支部、株式会社リロケーションサービス、石上車輌株式会社、
丸利 伊丹車輌株式会社、伊丹車輌株式会社 北広島支店、株式会社ファズ、山本建設株式会社、株式会社セクト、
札建工業株式会社、株式会社櫻井千田、株式会社オール、北海道中央バス株式会社、株式会社宅建、株式会社駿河、
株式会社カンリ、株式会社宮北都市開発、株式会社GV 北海道支部、フォレストクリエイトタック／ TACK

【NPO法人 北海道市民環境ネットワーク事務局】
〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8 愛生舘ビル5F
Tel 011-215-0148
Fax 011-215-0149
E-mail office@kitanet.org



一般財団法人
セブン-イレブン記念財団

きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団から助成を受け、
市民の環境活動を支援する「市民環境活動支援協定」を結び、
北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために活動を行っています。

vol.09

きたネット ニュース KITA-NET NEWS 2020/03

きたネット

きたネットWeb http://www.kitanet.org/
きたマップ http://kitamap.net
環境情報Blog http://blog.goo.ne.jp/kitanet-staff
きたネットFacebook https://www.facebook.com/kitanet.org
ラブアース・クリーンアップin北海道 http://www.love-earth-hokkaido.jp

NPO法人
北海道市民環境ネットワーク
「きたネット」

北海道の環境保全活動を推進・支援する
団体・個人・企業が参加する
ネットワークです。

メッセージ
MESSAGE

COVID-19(新型コロナウイルス)感染症対策で、環境団体も活動の延期・中止などを余儀なくされています。地域の魅力づくりやエコライフ推進に関わっているNPOの中には、学生や観光客の受け入れプログラムなどが壊滅、窮地に陥っている状況もあります。
昨年のきたネットフォーラムで、人獣共通感染症をテーマにしました。気候変動の影響や社会のグローバル化により、新たなリスクが国境を越え、ブラキストン線をこえて流入してくるでしょう。自己責任ではなく、地域の自己決定や、個人の自己管理のための知識や装備、スキルが求められています。

コラム
COLUMN
違う視点から同じ課題へ アプローチができるよう、架け橋になりたい

きたネット理事
東田　秀美(NPO法人　景観ネットワーク)

1995年に北海道内の歴史的建造物の保存活用を行う活動を始めて、1999年にNPO法人を設立し、社会起業をしました。当時は道内のNPO法人は少なく、全て手探りで始めましたが、その時に北海道NPOサポセンにお世話になり、中間支援のありがたさが身に沁みました。その後は勢いと依頼内容に任せて、活動範囲を広げ、関わる物件の数を増やし、道内各地で多くの事業を展開することができました。その過程の中で、北海道立市民活動促進センターの相談員になり、NPO活動の総合的な相談員という職能も加わりました。

現在所属している「NPOれきけん」は保存活用活動という分野別中間支援の性格を持っており、「きたネット」は環境分野の中間支援組織にあたります。縁あって、きたネットの設立時の相談にかかわり、2017年からは理事を務めています。分野別中間支援組織の在り方はさまざまですが、北海道内の環境団体の状況を考えると、「きたネット」がこんな組織になれれば良いなと思うことがあるので、理想も含めて、それらを書きます。

①道内で活動する環境団体は沢山ありますが、それぞれに思いが強くあり、活動しています。よって、市町村や道そして開発局や環境省などの政治的・行政的な計画策定や業務課程から協働する場面は多くないと感じています。中間支援組織として、具体的なプロセスへ強く介入できるようになりたいです。
②私は景観の活動をしていますが、景観と環境は紙一重だと感じています。根拠法として景観法もあり、農水省や国交省やそして環境省が所管です。環境というアプローチだけではない、違う視点から同じ課題へアプローチができるよう、架け橋になりたいです。
③各環境団体が抱える資金、人材、事務処理などの活動基盤の問題を、伴走支援できるようになることを理想として、これからも皆さんと連携をしていきたいです。そして、連携に値する組織でありたいです。

分野別中間支援の重要なことは、北海道というエリアに特化して、さらに活動内容やそこにある団体に特化して、それぞれの特徴や問題意識を共有するための連携が可能であること、それらの課題への解決策を共に考え、改善への道を共に歩むことができることだと思います。そして「きたネット」は、そんな組織になれると思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

インフォメーション
INFORMATION

「環境助成サポートチーム」から全国助成団体に提案を行いました。

「環境助成サポートチーム」は、きたネットと、NPO法人地域の未来・志援センター(愛知)、NPO法人近畿環境市民活動相互支援センター(通称/エコネット近畿・大阪)の環境中間支援組織3団体で組織し、2020年3月、今回の新型コロナウイルス感染症対策に係る、市民活動の中止・延期などによる活動団体への支援対応について、市民活動を対象とした全国の助成団体約100団体に、要望と提案書を送付しました。依頼・提案内容はWEBでご覧いただけます。また助成団体からの回答はHPで順次公開していきます。
http://kitanet.org/jyosei3.html